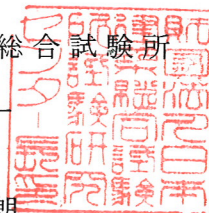


試験番号：IIJ-10-0054  
受付日：平成22年12月7日  
報告日：平成23年4月25日

木造接合部の強度試験  
[羽子板ボルト/DH スピinless羽子板ボルト  
/引張試験]  
報 告 書

試験結果は、本報告のとおりであることを証明します。

財団法人 日本建築総合試験所  
試験研究センター  
センター長  
工学博士 井上 一郎



技術管理者  
構造要素試験室長

完山 利行



|  |  |   |
|--|--|---|
| 試験名称                                     | 木造接合部の強度試験<br>[羽子板ボルト/DH スピinless羽子板ボルト/引張試験]  |   |
| 依頼者<br>(所在地)                             | 株式会社 ダイドーハント<br>(大阪府大阪市中央区西心齋橋1丁目5番5号)   |   |
| 試験実施日                                    | 平成22年12月24日  |   |
| 試験体                                      | 形状・寸法  | 図-1.1   |
|  | 接合金物   | 商品名：DH スピinless羽子板ボルト<br>【材質：Q235（中華人民共和国国家基準），形状・寸法：図-1.2】   |
|  | 接合具  | 柱側<br>六角ボルト、六角ナット：M12×L140mm<br>(1本、接合金物と柱を接合)【Zマーク表示金物】<br>角座金：40×40×t4.5mm<br>(1枚、六角ボルトと柱を接合)【Zマーク表示金物】 |
|  |  | 横架材側<br>角座金：40×40×t4.5mm<br>(1枚、横架材と接合金物ボルト部を接合)【Zマーク表示金物】<br>六角ナット：M12、t=10 (1個)【Zマーク表示金物】               |
|  | 柱・横架材  | 木材の樹種等：すぎ製材【無等級材 [栃木県産]】  |
|  | 試験体数   | 7体 (うち1体は予備試験)  |
|  | 備考   | 1. 試験体構成部材の諸元を表-1に示す。<br>2. 試験体の加工および組立は依頼者により行われた。<br>3. 上記の図表は依頼者提出資料による。                               |
| 試験方法                                     | 準拠基準   | 「木造軸組工法住宅の許容応力度設計（2008年版）、第6章 試験方法と評価方法、pp.561～592」（(財)日本住宅・木造技術センター）に準じて行った。                             |
|  | 試験装置   | 図-2   |
|  | 載荷方法   | 予備試験は単調載荷、本試験は一方向の繰返し載荷とした。<br>繰返し載荷は、予備載荷試験で得られた降伏変位 $\delta_y$ の1/2,1,2,4,6,8,12,16倍の順で各1回行うこととした。      |
|  | 試験体の設置方法   | 試験体の横架材両端部を800mmの間隔でスペーサー（PL-50）を介してボルト（M16）を用いて固定した。なお、接合金物の横架材への締め付けは手締め程度とした。                          |
| 測定機器                                     | 荷重値の検出には、50kNロードセルを用い、試験体各部の変位量の測定は、図-2に示す位置に設置した変位計を用いた。  |   |
| 試験結果                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>試験結果の一覧 ----- 表-2</li> <li>P-<math>\delta</math> 曲線の包絡線（試験体相互の比較） ----- 図-3</li> </ul> 上記試験結果中に示した記号の定義を [付録1] に示す。 |   |
|  | 短期基準耐力 ( $P_0$ ) : 9.1kN<br>短期基準耐力の算定方法を [付録2] に示す。  |   |
| 構造部 構造要素試験室<br>試験責任者 今西 達也<br>試験担当者 友清 繁 |  |   |